

Cold wind was blowing. The snow started to fall from the sky.

In this country, there was a saying that on such a day when snowstorms came, the "Snow Queen" would come down from the mountain and take children away. So, children must not go outside alone.

One day, a boy and a girl were playing in a room.

The boy was named "Kay" and the girl was named "Gerda". Two of them had known each other since they were little. They always played together.

As the snow and wind had weakened, Gerda and Kay went outside to play.

While they were playing with a sled on a snowy mountain, Kay suddenly stopped the sled.

"What happened, Kay?"

"I don't know. I thought I heard somebody calling me just now. Sounded like a woman's voice... But maybe not."



They continued on sledding, but Kay didn't look very happy at all.

The next day, Kay disappeared without a clue. Everyone in the town tried so hard to find him, but no matter how much they tried, Kay could not be found. Then Kay was rumored to have possibly fallen in a frozen river or been eaten by a bear. Nonetheless, Gerda believed that Kay was still safe somewhere.

After a few days, at around the time when all the people in the town fell asleep, Gerda left the town alone.

She kept walking for days to find Kay.



つめたい かぜが ふき、そらに ゆきが まいはじめました。
この くには ふぶきの ひは、『ゆきのじょう』が
こどもたちをつれさりに、やまから おりてきているのだと
いわれていました。なので、けっして こどもたち だけで、
そとに でては いけないのです。

そのひ、とある おとこのこと おんなのこが、
へやで あそんでいました。

おとこのこの なまえは 『カイ』。おんなのこの なまえは
『ゲルダ』です。ふたりは おさななじみで、
いつも いっしょに あそんでいました。

ゆきが やみ、かぜが おさまってきたので、
ふたりは そとに あそびに 出かけました。
ゆきやまを そりで すべっている とき、
きゅうに カイが そりを とめました。

「どうしたの、カイ？」

「わからない。いま、だれかに よばれた きがしたんだ。
おんなのひとの こえ だったような・・きのせいか」



それから また そりを はしらせましたが、
カイの ひょうじょうは、ずっと くもった ままでした。

その よくじつ、とつぜん、
カイが すがたを けしてしまいました。
まちの みんなは ひっしに カイを さがしましたが、
どこを さがしても、カイは みつかりませんでした。
そのうちに カイは、こおりの はった かわに
おちたのだとか、クマに たべられてしまったのでは
ないかとの うわさが ながれてきましたが、ゲルダは、
きっと カイが ぶじでいると しんじていました。

すうじつご、まちの みんなが ねしずまった ころ、
ゲルダは ひとりで まちを ぬけだしました。

ゲルダは カイを さがして、
なんにちも あるきつづけました。

